

京阪間の交通の要衝・淀に、太陽光発電設備を備えた内陸型物流施設を建設

「京阪淀ロジスティクスヤード」の建設について

- 京都市伏見区・淀に内陸型物流施設を建設。
- 立地は京滋バイパス・久御山淀ICより車で約4分、名神高速道路・大山崎ICより約6分と近畿圏でも有数の交通の要衝。
- 施設屋上部には太陽光発電設備を設置。環境配慮型の施設建設を目指します。

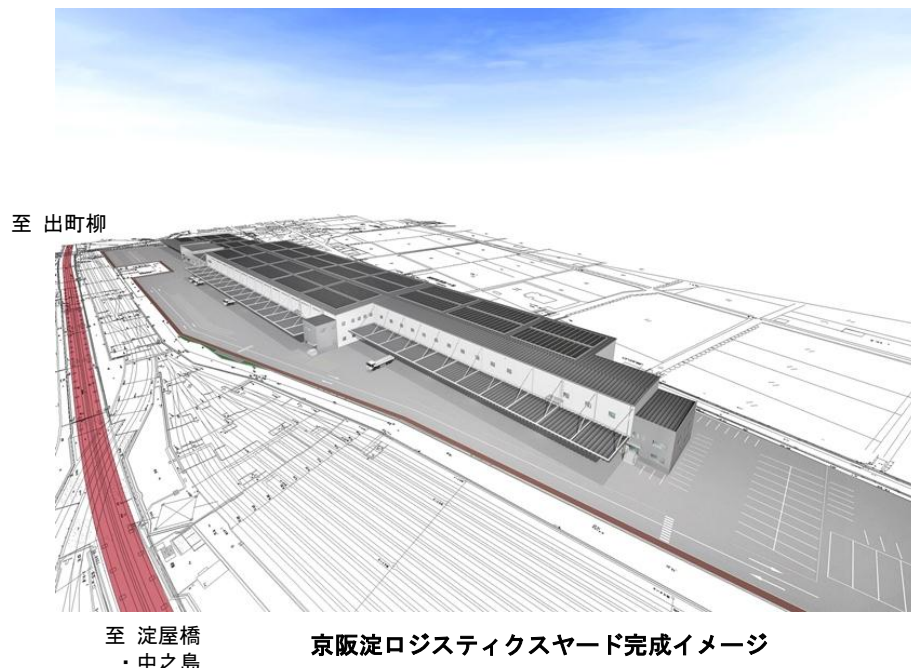
京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪府中央区、社長：加藤好文）では、平成28年春の開業を目指して、近年社会的ニーズが高まっている内陸型物流施設を、淀車庫拡張用地(京都市伏見区淀美豆町)に建設いたします。京阪線の車庫としては、すでに寝屋川車両基地、淀車庫の2カ所がありますが、少子高齢化および人口減少社会への転換の影響もあって、近年、運行列車の大幅な増強の見込みがなくなったことから、社有地の有効利用を図るものです。

近畿圏において大型物流施設の多くが大阪湾岸地域に集中する中、京阪間に位置する当該用地は、京滋バイパス・久御山淀ICより車で約4分、名神高速道路・大山崎ICより約6分と交通至便の地にあり、物流施設としては、近畿圏でも有数の交通の要衝に立地しています。さらに、今後、新名神高速道路が開通すれば、ますますその利便性は高まると考えられ、近畿圏のハブ地点としての需要に十分応えられる環境にあります。

京阪淀ロジスティクスヤードは、A棟、B棟、C棟の3棟からなり、平成28年春の供用開始を目指しています。なお、同施設屋上部には設置パネル数約5,300枚からなる太陽光発電設備を設置し、年間約120万kWhの発電量を見込んでいるほか、建物南側に緑地帯を設けるなど周辺への環境に配慮した施設の建設を進めています。

京阪グループでは、中期経営計画(平成24～26年度)の中で、「沿線の肥沃化に向けた新規事業の推進」を掲げており、京阪グループとして、さらなる成長分野の開拓を行い、グループの価値向上に結びつけていく所存です。

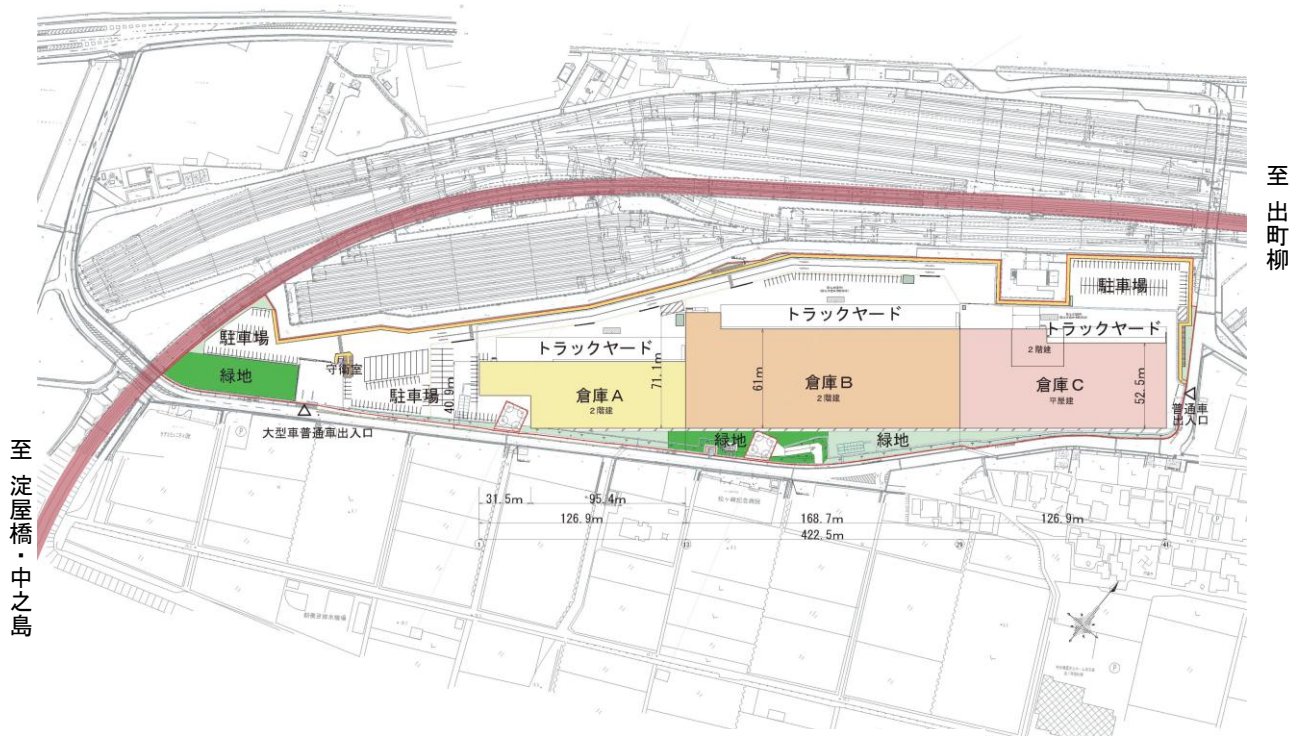
詳細は別紙のとおりです。



(別紙)

1. 事業計画の概要

名称：京阪淀ロジスティクスヤード
建設地：京都市伏見区淀美豆町555-1他
用途地域：準工業地域
敷地面積：約52,900㎡
建物用途：倉庫業を含む倉庫(A、B、Cの3棟)
階数：地上2階、一部平屋建て
建築面積：約26,900㎡
延床面積：約42,700㎡



京阪淀ロジスティクスヤード概要図(予定)

2. テナントリーシング状況

現在、テナントリーシングを展開しております。

- ・ A棟(延床面積 約10,900㎡) テナント：決定
- ・ B棟(延床面積 約23,200㎡) テナント：未定
- ・ C棟(延床面積 約8,600㎡) テナント：決定

※A棟、B棟についてはマルチテナント型物流施設、C棟についてはBTS型物流施設。
マルチテナント型物流施設は建築主自らが施設を建設し、エンドユーザーに対して建物賃貸を行う形態。それに対して、BTS(ビルド・トゥ・スーツ)型物流施設は、特定のエンドユーザーのニーズに応じた施設を建築主自らが建築し、当該エンドユーザーに対して建物賃貸を行う形態。

3. 太陽光発電設備の概要

京阪淀ロジスティクスヤードの屋上部分に太陽光発電設備を設置。

パネル数：約5,300枚(A、B、C棟屋上に設置)

発電容量：約1,250kW

年間発電量：約120万kWh(20年平均、一般家庭約320世帯分)

4. 事業計画スケジュール

平成26年4月	京都市環境影響評価等に関する条例 手続完了
平成26年5月	京都市土地利用の調整に係るまちづくりに関する条例 手続完了
平成26年8月	都市計画法に基づく開発許可
平成27年2月	建築工事着工(予定)
平成28年3月	建築工事竣工(予定)
平成28年春	物流施設供用開始(予定)



計画地周辺図

以上